



いな・かつぺい / IINA KAPPEI

優しく豊かな津軽弁の世界

評者 立川談四楼 落語家

「もっけのさいわい」

伊奈かつぺい

いな・かつぺい 1947年、青森県生まれ。青森短期大学卒業。青森放送勤務時代の1974年、処女詩集『消しゴムで書いた落書き』を発表。以降、マルチタレントとして活躍。著書に『旅の空 うわの空』『げんせん書け流し』など多数。

著者の芸名・伊奈かつぺいが、そもそも田舎つべのダジャレであり、その名を聞いて咄嗟に浮かぶのはアイデンティティとも言うべき津軽弁である。

弘前生まれの演劇青年が陸奥新報社を経て青森放送は美術部に入り、やがてテレビやラジオのディレクターとして数々の番組を手がける。詩集を出したのをきっかけにラジオパーソナリティとなり、一躍東北の人気者に。

は引っ繰り返り、そこには話術に魅入られたプロの姿もある。シンガーソングライターとしてのもの、トークライブの模様など数々のCDを出しているが、著作活動も盛んで、本書はその新刊というわけだ。

柳、狂歌、地口と何でもありだ。その一端を。艶問過多 滅塩と結果について 傾向問う対策 酸性多数 貧乏肥満なし 卒倒 おやすみ 飢食つて痔かたまる 吐気酔い残った残った 市民に口無し 健康死んだん 八割方八郎潟…… どうだろう、いまひとつ伝わらない気もする。では、これは。へせまい長屋も楽しいわが家 へ坊や縁故だ入社しな へ棟梁の傷は一昨年の五月五日の出入りの日……。

活字であって、著者独特の手書き文字の味や、ましてやそれが訛っていることなど伝わらないだろう。困った、どうしよう。ご一読をお勧めしようにも版元は遠く青森で、東北の方以外は手が難しいのだ。